

濱田福司氏

第14代白岡町長に

地域の更なる飛躍を目指し

合併による新市誕生に向け

最大限の努力を傾注します



町長就任あいさつ

去る11月9日に告示されました白岡町長選挙におきまして、町民の皆様をはじめ、各方面からの力強いご支援と温かいご厚情を賜り、無投票当選の栄に浴し、引き続き3期目の町政を担当させていただきますことになりました。

ここにあらためて、責任の重さを痛感するとともに、皆様から寄せられました信頼と期待にお応えするため、新たな決意と情熱をもって、「ふるさと白岡」の更なる発展のために全力を傾注して参る所存でございます。

また、平成8年11月26日に町長に就任以来、町政のさまざまな分野にわたり、着実な歩みを示すことができましたことは、町議会議員の皆様をはじめ、町民の皆様の深いご理解とご協力の賜でございます。さて、全国の地方自治体は、歴

史的転換期の渦中にありまして、多種多様な行政ニーズにどのように対応し、地方分権が叫ばれる中どのように独自性を創造していくか、大きな正念場を迎えております。

そうした中で、私が常々申し上げておりますまちづくりの基本理念は、まずはじめに、緑豊かな自然環境を最大限に生かし、「自然と人」との共生のもと、何よりも「人がいてこそ、まちがある」という考え方をもち、すべての人が互いに人を尊重し、人として尊重される『人間尊重』のまちづくりであります。

次に、人々が、生涯を通じて健康で、いきいきと安心して暮らし、生きる喜びを実感できる『福祉優先』のまちづくりであります。

さらに、これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会の在り方を問い直し、自然環境の保全をはじめ、生活環境全般の整備すなわち下水道の促進や生活道路の整備、さらには交通安全対策、防犯灯・街路灯整備増設などに取組み「生活環境重視」のまちづくりであります。

以上のような基本理念のもと、各種事業を効率的かつ効果的に行うためには、さらに行政改革を推進するとともに、かつてない厳しい財政状況のもとでありますので、もっとも有利な財政制度などを選択し、限られた財源の重点かつ効果的な配分に意を用いて参ります。このほか、町民の皆様から地域に根差したさまざまなご意見をい

ただきながら、町民生活に欠くことのできない新たな政策課題につきましても、創意工夫を凝らしながら取り組んで参りたいと考えております。

また、町では、地方分権の成果を十分に上げていくために、行財政基盤の強化を図る必要があります。そのため、合併問題について検討してきたところでありますが、蓮田市・白岡町・菫浦町合併協議会の会議も実質的な審議を終え、現在、新市建設計画の概要や合併協議のあらましについてお知らせし、合併に向けた取り組みを説明させていただいたための住民説明会を実施しておるところでございます。

私は、町民福祉の向上を第一に考え、町民・議会・執行部が一体となって、この時代の大きな潮流を乗り越え、地域全体の未来を切り開いて行かなければならないと肝に銘じております。

この合併は当町にとつて、これまで築き上げてきた成果をさらに発展させ、町がこれからも町民の

皆様の生活のよりどころにふさわしい、より充実したまちづくりを進めることができるよう、新たな出発を期する機会となる重要な意味を持つものと存じます。

したがって、社会のシステムが大きく変わり、自治体の力量が問われている今こそ、変化を恐れず、それに立ち向かう気概を持ち続ける必要があると考えております。

私は、町民の皆様一人ひとりがその将来に「夢と希望」を持つことができ、ここに生まれ育って良かった、住んで良かったと、誇りと自信を持っていただけるような新しい地域づくりを力強く推進していかなければならないと、あらためて決意しておるところでございます。

そのため、これまでの経験を生かし、町民の皆様と手を携えながら、誠実に町政を推進して参りたいと存じますので、皆様のより一層のご理解、ご協力を心からお願ひ申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



輝く未来を目指して

白岡町長選挙のお知らせ

平成16年11月14日執行の白岡町長選挙は、立候補届出者が1人のため、無投票となりました。

問合せ先
選挙管理委員会
内線342・343



障害を持つかたとともに

自分らしく 豊かな生活を送ろう

白岡町身体障害者デイサービスセンター

毎日どんな事をしているの

白岡町身体障害者デイサービスセンターは、今年4月「はびすしらおか」内に開所しました。

現在、身体に障害を持つかた14名が、週に1～3日利用しています。

主な日課としては、朝、車いす仕様車で迎えに行き、お茶を飲んで一服してから健康観察（血圧や体温測定）を行います。午前中は創作活動を行っています。現在は主に割りばしによる製品作り、さをり織りを行っています。限定されたものではありません。利用者のかたといっしょに、個々に合う内容や好みを考えています。

昼食後は入浴で、入浴後はリハビリを行っています。個別のリハビリプログラムに従い、職員が手伝いをさせて頂いています。



将来に向けた取り組み

創意工夫がたくさん加えられて

さきほどの創作活動について、もう少し説明を加えると...

割りばし製品には、電球カバーや植木鉢囲い、オブジェにぴったりのらせん状に積み重ねた創作品など、いろいろな作品があります。色塗りには、「風水」を取り入れたりする事もあります。

クリスマスや正月飾りのリースなど、その種類もどんどん増えてきています。

さをり織りも割りばし作品も、片まひのかたをはじめ、身体に障害のあるかたがたが、自分のペースでゆっくり丁寧に作りあげています。時には曲がってしまう割りばしに腹を立て、時には横糸を通す場所を間違えた自分にがっかりしながらも、時間をかけて出来上がっていきます。

割りばし製品



ボーナスが出ました

このようにして仕上がった作品を展示即売し、昨年の暮れには、一人2,000円のボーナスを出す事が出来ました。その使い道もさまざまです。普段小遣いもあげられない子どもたちに分けたかた、世話になっている娘さんやご主人にあげたかた、おばあちゃんにあげたかた、貯金をしたかた、服を買ったかたなどなど。貴重な2,000円でした。さて、今年は...



さをり織り

仕事をする事の意味

白岡身障デイでは、この創作的な活動を、将来的には仕事に発展させる事を目指しています。

障害の軽重にかかわらず、いつでもいつまでも地域や社会に貢献している、出来ているという意識が持てるということは非常に大きな意味があります。

自分に自信を持ち、明るくなれるかた。自己の存在感を再認識されるかた。これまで以上に家族に感謝し、多くの友人が出来るかたなど、いろいろな広がりを見せてくれる事でしょう。

一人の障害を持たれたかたが、その住みなれた地域の中で自分らしく豊かな生活を送るお手伝いをさせていただきたいと考えています。

どうぞ是非一度遊びにいらっしやいませんか。

ボランティアを募集しています

手織りを教えて頂けるボランティア
白岡身障デイで行っている「さをり（手織りの一つ）織り」を教えてくださいませんか。

今は職員が整経をして、縦糸張りを行っています。実際に織って行く中では、まだまだ不明な箇所が出て来てしまいます。

素敵な反物に仕上げ、縫製を教えたいただけるかたを探しています。

次ような事を教えてくれるボランティア

- ・言語訓練を教えるかた
- ・言語聴覚士
- ・身体の機能訓練を教えるかた
- ・理学療法士
- ・車いす・片まひのかたが出来る運動（心肺機能の向上）
- ・文化的な活動



問合せ先 身体障害者デイサービスセンター ☎(93)0201